

# 民主化闘争情報

No. 906  
2014年7月7日  
発行 日本鉄道労働組合連合会  
(JR連合)

JR東日本とJR総連・東労組との蜜月関係に大きな亀裂が生じている。JR東日本は、浦和電車区事件を契機に職場秩序の確立に乗り出してきているが、今回、「京浜東北・根岸線の乗務員基地再編成」という大規模な合理化施策を打ち出した。JR東労組の拠点とも言える運転区の廃止を機に、JR東日本はJR東労組との蜜月関係から大きく舵を切り始めた。このような状況下、6月8日から開催されたJR総連・東労組の定期大会では、ストライキ戦術の行使を巡り、混乱が生じた模様である。

## 「下十条運転区の廃止」で反発強めるJR東労組！ ストライキ戦術の行使を巡り混乱！？

### JR東日本とJR東労組に大きな亀裂！

昨年12月、JR東日本はJR総連・JR東労組本部に対して、「京浜東北・根岸線の乗務員基地再編成について」を提示した。具体的には、効率的な業務執行体制の構築に向けて、下十条運転区を廃止し、さいたま運転区、さいたま車掌区、大田運輸区、横浜運輸区、相模原運輸区を新設、3支社間（大宮、横浜、東京）で異動を伴うもので、JR東労組・東京地本は、「下十条運転区の廃止を機に、JR東労組との労使関係を抜本的に見直し、組合員の分断と組織の弱体化を目指している」と危機感をあらわにしている。

JR東労組・東京地本のホームページによると、2月に入り東京支社は、同支社管内の全運転士と全車掌を対象に概要説明を実施するなど、地本との労使協議を飛び越えて、社員説明を行ったほか、3月17日からは、下十条運転区で面談が開始され、「先に意思表示していた社員を優先する」などの説明があったという。浦和電車区事件の地位確認訴訟、八王子掲示物撤去事件など、これまでもJR東日本は、JR東労組に対して是々非々で対応を行ってきたが、JR東日本は、これまでのJR東労組との蜜月関係から大きく舵を切り始めた。

### 危機感あらわなJR東労組！

### ストライキ戦術の行使！？それとも労使共同宣言の破棄！？

JR東労組・東京地本は東京支社に対して3月26日に、「面談の中止を求める緊急申し入れ」を提出し、4月9日から団体交渉が行われ、会社側は面談の中止について、即日回答は避け4月22日の団交で面談の継続を主張したようだ。

これに対して東京地本は、「これまで築きあげてきた集团的労使関係を破壊し、すべてを就業規則のみで強行しようとしている」と指摘した上で「正常な労使関係を確立しよう」との見解を出している。すなわち、JR東日本の労務政策の転換に危機感を強めるとともに、従来の蜜月関係の確立を哀願していると推測される。

一方で、5月27日、東京地本は、第37回臨時地本委員会を開催し、「ストライキ戦術の行使」を決定するとともに、6月8日から開催されたJR東労組の定期大会では、一部地本からは反対意見が出されるなど、一枚岩になりきれず、混乱が生じている模様である。

JR東労組とJR東日本が締結している「21世紀労使共同宣言」において、「JR東日本とJR東労組とは、労使相協力する健全な労使関係へと自己改革を図ってきた」「平和裡かつ自主的に労使間の真摯かつ率直な話し合いにおいて自主解決を図る」としている。「ストライキ戦術の行使」について議論するのは労働組合の権利であり自由であるが、まずは「21世紀労使共同宣言」を破棄すべきではないのだろうか！